

寿老人置物 三輪休雪(十代) 一点

昭和三年(一九二八)  
陶磁  
像本体一七・五×二〇・四×四八・三  
総高五七・五

目尻を下げて微笑みをうかべ、はにかんだような表情が人間味を感じさせる萩焼の寿老人像。萩焼の特徴で、藁灰釉が溶けて白濁した部分と、釉薬の掛かりが少なく焼けて赤褐色に変化した箇所が生まれている。それによって、白くならなかった目や髭など突端部の形状から、表情をよくうかがうことができる。寿老人の右手に持った杖は木製であるが、左手側にびたりと寄り添う鹿が寿老人と一体化して作られているのが面白い。しかし、顔や衣紋などは写実的に造形されており、すぐれた彫塑性を感じさせる。萩焼といえ

ば現代では茶陶を制作した窯業地というイメージが強いが、江戸時代後期には置物などの細工物も作られており、戦後に「桃山復興」と呼ばれた茶陶回帰が起る前の時代を彷彿とさせる造形である。

本作は昭和三年(一九二八)十一月の大札に際して、山口県知事大森吉五郎より献上された。作者を示す銘や箱書はないが、作風やその他の資料により、十代三輪休雪(休和、一八九五―一九八一)の作とみられる。十代休雪は昭和四十五年に重要無形文化財「萩焼」保持者となった。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan